

生物暦 Vol.3

～いきものこよみ～

国立環境研究所 生物季節観測研究チーム

1.ごあいさつ

調査員の皆様、あけましておめでとうございます(新年のご挨拶、ととてもとても遅くなり申し訳ございません。)。本年もどうぞよろしく願いいたします。

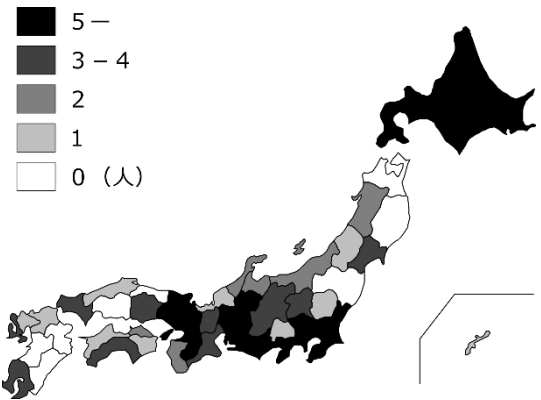
このところ一旦落ち着いていたコロナがまた猛威を振るっておりますが皆様お変わりありませんでしょうか。観測で外にお出かけになる際もマスクを欠かさず、感染対策にお気を付けください。

そろそろ春の観測が始まりそうな地域もありますので、本格的に観測が始まる前に、昨年皆様からお寄せいただいた観測記録の集まり具合を共有させていただきたく思いニュースレターをお送りいたします。

2.調査員募集の動向と現在ご参加の調査員の「分布」

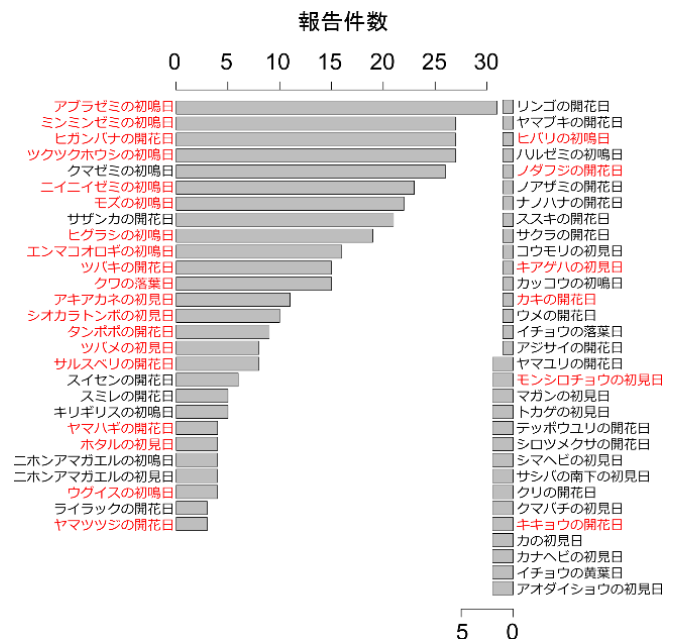
毎度おなじみ調査員マップを掲載いたします。現在、ご参加いただいている調査員の人数は250名を上回りました。全国39の都道府県からご参加いただいております。日本地図の空白地帯がどんどん狭くなってきており、生物季節チーム一同、とても嬉しく思っております。

引き続き、手薄なエリアを中心に、広報活動を展開していきたいと思っております。もちろん、複数の調査員の方がおられる都道府県でも募集は続けております。皆様から頂いている記録をより価値のある記録として生かしていくためにも、なるべく広いエリアを網羅することが重要であるため、より一層呼びかけに力を入れてまいります。



3.ご報告いただいた観測記録の全報告件数

観測開始から1月までに、400件を超える観測記録をご報告いただいております。右の棒グラフが各生物種目とその報告件数を表したものです。赤色の文字の物は過去の気象庁の観測記録が充実している“重要種目(準)”として提案しているものです。重要種目の報告件数が上位に来ていることから、気象庁の観測記録を生かす形で新たな観測につなげるという目的と一致する良い体制が構築できてきていることが窺えます。改めてお礼申し上げます。



4.重要生物種目観測開始カレンダーとアラート予定

全国の平均的な始まりの時期からおよそ1か月程度早い時期に観測開始アラート（気を付けていただくための呼びかけ）を皆様にお送りしたいと考えています。その予定表が次の表です。すでに過ぎてしま

っている物もあります…申し訳ございません…

この表は、過去の気象庁の記録を参考に集計しておりますので、もっと詳しい時期を確認したい方は以前お送りした時期目安表を参考にしてください(記録用紙と共にメールでお送りした表です。ご不明な点はお問い合わせください。)

1月		2月		3月	
下旬	上旬	下旬		上旬	
タンポポの初花日	モンシロチョウの初見日			キアゲハの初見日	
ウグイスの初鳴日	ヒバリの初鳴日			ヤマツツジの初花日	
	ツバメの初見日			ノダフジの初花日	
4月		5月		6月	
上旬	上旬	下旬		上旬-下旬	
シオカラトンボの初見日		ニイニゼミの初鳴日	ツクツクホウシの初鳴日		
カキの開花		アブラゼミの初鳴日	ヒグラシの初鳴日		
ホタルの初見日		ミンミンゼミの初鳴日	ヤマハギの開花日		
		サルスベリの開花日			
7月		8月		9月	
上旬-下旬		上旬		下旬	上旬
	モズの初鳴日	アキアカネの初見日			
	エンマコオロギの初鳴日	ヒガンバナの開花日			
10月		11月		12月	
上旬		下旬		上旬	
	ツバキの開花日				

5.フェノロジー研究豆知識

・中国やロシアにおけるフェノロジー観測ネットワーク

Vol1,2 と、欧米諸国の例を紹介しましたので、他の大国のネットワークについても紹介します。

まず、中国におけるフェノロジーネットワークは、中国の近代地理学の礎を気づいた竺可楨(チューコーチェン)博士によって1920年代から開始されました。彼がモニタリングを開始したのが1921年といわれており、その後1934年から、中国で初めてのフェノロジーネットワークを設立したとされています。日中戦争によって観測が一時的に停止しましたが、1963年から再度竺可楨博士や中国科学院によって観測が再開されました(CPON:<http://www.cpon.ac.cn/>)。現在の観測地点は中国全土に30地点あり、自然植物の観測地点が26地点、園芸種の観測地点が4地点設定されています。観測対象は木本植物を中心に35種目の共通観測種と127の選択種(日本の気象庁の観測でも、全国の観測所で観測する事になっていた“規定種”と、各地の気象台が独自に選べた“選択種目”とがありました)、動物が12種、作物が4種含まれています。他にも、1980年からは中国気象局でも全国的なフェノロジーネットワークが構築され現在も観測が行われています。

ロシアにおけるフェノロジーネットワークには、ロシアの自然保護エリアを対象とした長期観測ネットワークがあります。この観測はロシアの自然保護区における初のモニタリングプログラムです。気象や生物フェノロジー観測のほかに動物相や植物相の記録、植生変化の地図化などを長期的に観測し、“ネイチャークロニクル”として成果を出版しています。この観測は研究者や観測員学生などのロシアの自然保護区で活動する人々によって行われています(<http://www.denkamen.ru/en/node/192>)。他にも、ロシアにはロシア地理学会によって1848年から行われているボランティアによるフェノロジー観測ネットワークがあるようですが、文書がロシア語で書かれており、私には把握しきれませんでした…申し訳ございません…

～・～・～・～・～・～活動へのご意見・お問い合わせの窓口～・～・～・～・～・～

E-mail: ccca_phenology@nies.go.jp Tel: 0298-50-2375 (辻本・西廣)